

つながる技術、ひろがる未来

MF-TOKYO 2019 開催に寄せて

(一社)日本鍛圧機械工業会 坂木雅治*

「MF-TOKYO プレス・板金・フォーミング展」は、わが国の鍛圧機械の実力を世界に発信し、鍛圧機械産業の発展を目指すことを目的にスタートしました。MF-TOKYO の変遷や今回の特徴をご紹介します。

◇10年の節目を迎える MF-TOKYO

10年前の2009年にMF-TOKYOはスタートしました。今回、6回目を迎えますが、回を重ねる毎に展示規模が成長できたのも、ひとえに会員企業をはじめ、ご出展頂いたみなさま、そして後援、協賛を賜りました関係諸団体各位のお陰と感謝いたしております。この場を借りてお礼を申し上げます。

今回の開催規模は、253社/団体1,716小間と第一回の112社/団体701小間の倍を超える過去最大小間数となります。みなさまご存知のように、来年は東京五輪・パラリンピックが開催されます。その関係で、これまで開催していた東京ビッグサイト東ホールではなく、西1、2ホールと新設の南1、2ホールを使用しての開催となります。

今回の出展募集は、出展申込受付を昨年7月に開始し、申込期限を本年1月末に設定していま

すが、積極的な出展申込により昨年11月中旬に募集を打ち切ることになりました。そのため、出展をお断りしたケースもあったと聞いております。

今回の展示では、大きな展示物を計画している出展者が多い様子で、出展小間数の多さと併せ、この展示会に取り組む各社の意欲の大きさを感じております。

その意欲の大きさは、MF-TOKYOにおける商談などのビジネスの実効性の高さを各社が認識しているからではないでしょうか。これはビジネスにつながる来場者が多くお越し頂いているということでもあり、いずれにしても質の高い出展者と来場者に育てられてきた展示会であると言えるでしょう。

◇つながる技術、ひろがる未来

ドイツが提唱したインダストリー4.0以降、アメリカ、日本、そして中国と主要国がより高度なものづくりの仕組みやプラットフォームの構築を目指しています。日本のメーカーは、省エネルギー化・省資源化・高効率化というものづくりを得意としてきましたが、それに加え“情報”をいかに繋げて活用するかが課題となっています。IoTという言葉も普通に使われるようになりました。鍛圧機械産業では、生産管理のネットワーク化、故障を未然に防ぐ機械の保守・点検情報などに、IoTが活用されています。これからは、モノとモノとのつながりだけでなく、人と技術、国境を越えた企業と企業、そして世代を超えた技能や知恵のつながり（継承）など、経済産業省が提唱する“Connected Industries”の実現に向けた取組みが深化するでしょう。本展でもその一端が展示され

* (さかき まさはる) : 代表
理事長
株アマダホールディングス
相談役
〒105-0011 東京都港区芝公園
3-5-8 機械振興会館 308
TEL: 03-3432-4579



坂木雅治会長